

橋樸 はしはら 評論家。明治十四年十月十四日大分縣生れ、昭和二十年

十月、二十五日歿（六八一—九四六）。號瀾次、朴庵、江南。明治二十六年

早稻田大學中退。二十九年渡支、遼東新報社入社。大正二年『白華公

論』を執筆、シンリヤヤ出兵従軍記者を経て、『京津日日新聞』、次いで『日

刊文那研究』を創刊。大正十四年滿鐵（南滿洲鐵道株式會社）囑託、

昭和八年『滿洲評論』創刊、翌年滿洲帝國協和會理事。奉天に客死。

著書『滿洲と日本』（編、昭和六年十一月、千八百改選社）、『支那

思想研究』（昭和十一年八月、千八百改選社）、『滿洲建國の現過

程』（昭和十二年十月十日新京・滿洲帝國協和會「協和文庫」）、『職

域奉天論』（昭和十七年二月、二十五日日本評論社）、『近代支那思想』

（合著・實藤魚秀編、昭和十七年六月十日光風館「近代支那文化讀

本」）、『中華民國二十年史』（昭和十八年七月、千八百岩波書店「岩

波新書」）等。

文獻、田中武夫著『橋樸と佐藤大四郎—合作社事件・佐藤大四郎の生

涯』（昭和五十二年二月、二十五日龍溪書舎）等。